

CAS RN	物質名称	別名	濃度基準値	短時間濃度基準値 *は天井値	分析法番号	捕集分析法	備考	文献名	検討年	出典(リスク評価書) ここからあんぜんサイト、または、測定方法の個票に飛びます。飛ぶと出て来る資料は、資料1-1と資料1-2(アセチルサリチル酸の例)です。	その他の測定法
50-78-2	アセチルサリチル酸		5 mg/m ³		2022-102	ろ過捕集-液体クロマトグラフ分析法	総粉じんを捕集して加水分解し易いアセチルサリチル酸を、水酸化ナトリウムで加水分解してサリチル酸で定量する	リスク評価書、No.102, アセチルサリチル酸(別名:アスピリン)、p.28	2014	リスク評価書 https://www.mhlw.go.jp/content/11305000/000606226.pdf	参考文献 1) OSHA Chemical Sampling Information (acetylsalicylic acid) https://www.osha.gov/dts/chemicalsampling/data/CH_217015.html 2) OSHA Chemical Sampling Information (m-hydroxy benzoic acid) https://www.osha.gov/dts/chemicalsampling/data/CH_246901.htm
62-53-3	アニリン		2 ppm		2022-000	ろ過(反応)捕集-ガスクロマトグラフ分析法	ガスクロマトグラフの注入口への吸着が大きいので、アルカリ処理したライナーを使用するとデータが安定する	62-32-5 リスク評価事業106 アニリン 測定手法	2014	掲載準備中	
63-25-2	N-メチルカルバミン酸1-ナフチル	カルバリル	0.5 mg/m ³		2022-000	ろ過捕集+固体捕集-液体クロマトグラフ分析法	捕集・保管時に要遮光			掲載準備中	
75-00-3	クロロエタン		100 ppm		2022-000	固体捕集-ガスクロマトグラフ分析法		75-00-3 リスク評価事業124 クロロエタン 測定手法	2015	掲載準備中	参考文献: NIOSH Manual of Analytical Method 2519, Issue 2. Ethyl Chloride. National Institute for Occupational Safety and Health(NIOSH), Cincinnati, OH, USA. Fourth edition, 8/15/94.
75-05-8	アセトニトリル		10 ppm		2022-084	固体捕集-ガスクロマトグラフ分析法	-	リスク評価書 No.84 (詳細;経気道に係る中間報告)、アセトニトリル、p.43	2016	000606224.pdf (mhlw.go.jp)	
75-07-0	アセトアルデヒド			10 ppm	2022-041	固体(反応)捕集-液体クロマトグラフ分析法	・リスク評価報告書に詳細な測定法の評価がないが、汎用の分析法であるため、使用可能な方法である	初期リスク評価書 No.41(初期)、アセトアルデヒド、p.17	2010	https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/2r9852000000e8q1-att/2r9852000000eh2k.pdf	
75-35-4	1,1-ジクロロエチレン	塩化ビニリデン	5 ppm		2022-000	固体捕集-ガスクロマトグラフ分析法	・高濃度では検量線に直線性がないため、検出器をFIDとして検討する必要がある ・保存安定性の情報がないため、確認する必要がある			掲載準備中	

75-86-5	アセトンシアノヒドリン		5 ppm	2022-000	固体捕集ーガスクロマトグラフ分析方法	<ul style="list-style-type: none"> ・CNイオンの分析法は、作業環境測定法と同等の水酸化ナトリウム溶液によるインピンジャー方式となるため、作業者の安全に配慮する必要がある。 ・アセトンシアノヒドリンを測定しなければ、生体内でのシアニオンについて過小評価の可能性あり。 ・保存安定性は3日後には不安定であるため、捕集後速やかに分析するのが望ましい 			掲載準備中	
76-03-9	トリクロロ酢酸		0.5 ppm	2022-107	固体捕集ー液体クロマトグラフ分析方法	ガスクロマトグラフ法は不安定であるため、液体クロマトグラフ法を採用した密栓し遮光袋に入れて室温で保存する	リスク評価書、No.107（初期）、トリクロロ酢酸、p.38	2016	https://www.mhlw.go.jp/content/11305000/000606231.pdf	
76-06-2	トリクロロニトロメタン	クロロピクリン	0.1 ppm*	2022-000	固体捕集ーガスクロマトグラフ分析方法	要遮光			掲載準備中	
76-22-2	しょう脳		2 ppm	2022-110	固体捕集ーガスクロマトグラフ分析方法	<ul style="list-style-type: none"> ・蒸気圧は常温で0.2 mmHg, 70°Cで4 mmHgであるため、粒子を捕集しても一部または全て気化する ・粒子状のしょう脳を捕集するために、前段にグラスファイバーフィルターが必要である 	リスク評価書、No.110（初期）、しょう脳、p.35	2018	https://www.mhlw.go.jp/content/11305000/000606234.pdf	参考文献： 5) OSHA Toxic and Hazardous Substances、1910.1000 TABLE Z-1、Limits for Air Contaminants. (March 25, 2016) 6) NIOSH 1301; KETONES II (1994) 7) NIOSH 2553; KETONES II (2004) 8)小野真理子、管野誠一郎、荻原正義、古瀬三也：作業環境における低濃度の発がん性物質の分析法の開発に関する研究、労働安全衛生総合研究所特別研究報告 JNOSH-SRR-NO. 44 (2014) 9)杉本 功、高橋嘉輝：溶媒和物、非晶質固体と医薬品製剤、粉体工学会誌、Vol.22、No.2 (1985)
78-30-8	りん酸トリ（オルトトリル）		0.03mg/m ³	2022-122	ろ過捕集ー液体クロマトグラフ分析方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ガスの捕集を考慮していないので、ばく露状況に応じて上記の捕集法が必要になる。 ・IFV根拠となる比率は0.067である。 	リスク評価書、No.122（初期）りん酸トリ（オルトトリル） p.28 厚生労働省	2021	https://www.mhlw.go.jp/content/11305000/000826157.pdf	参考文献： 2)空气中フタル酸エステル類及び有機リン酸エステル類の分析法 1項 東京都立衛生研究所研究年報第52号2001年発行 3) NIOSH Manual of Analytical methods (NMAM)5037 TRIORTHOCRESRYL PHOSPHATE 15 August 1994 4) ポリ塩化ビニル中のクレゾールリン酸エステルの分析法 食品衛生学雑誌Vol.44第1号27 - 29項、2003年発行

78-59-1	イソホロン		5 ppm	2022-109	固体捕集ーガスクロマトグラフ分析方法	ー	リスク評価書、No. 109 (初期)、イソホロン、p.34	2016	https://www.mhlw.go.jp/content/11305000/000606233.pdf	参考文献： 1. 化学物質の環境リスク評価 第6巻、環境省環境保健部環境リスク評価室 2. The National Institute for Occupational Safety and Health (NIOSH):ISOPHORONE: METHOD 2508 (1994) 3. The National Institute for Occupational Safety and Health (NIOSH):ISOPHORONE: METHOD 2556 (2003) 4.平成19年度化学物質分析法開発調査報告書(環境省)
78-79-5	イソプレン		3 ppm	2022-016	固体捕集ーガスクロマトグラフ分析方法	脱着率・保存安定性とも80%程度で、過小評価の可能性あり	初期リスク評価書、No.16 (初期)、イソプレン、p.14	2009	https://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/06/dl/s0630-7e.pdf	
90-04-0	o-アニシジン		0.1 ppm	2022-018	固体捕集-液体クロマトグラフ分析方法	要遮光	初期リスク評価書、No.18 (初期)、オルト-アニシジン、p.16	2009	https://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/06/dl/s0630-7o.pdf	
92-52-4	ビフェニル		3 mg/m ³	2022-094	固体捕集ーガスクロマトグラフ分析方法	ー	リスク評価書、No.94 (初期)、ビフェニル、p.36	2019	https://www.mhlw.go.jp/content/11201000/000496397.pdf	
94-75-7	2,4-ジクロロフェノキシ酢酸		2 mg/m ³	2022-115	ろ過捕集+固体捕集-液体クロマトグラフ分析方法	捕集・保管時に要遮光	リスク評価書、No.115 (初期)、2,4-ジクロロフェノキシ酢酸、p.39		https://www.mhlw.go.jp/content/11305000/000606239.pdf	参考文献： 1)厚生労働省 職場の安全サイト GHS モデル SDS 情報 2)国際化学物質安全性カード (ICSC) 2,4-D 3)2,4-D、METHOD: 5001, Issue 2、NIOSH Manual of Analytical Methods (NMAM)
96-09-3	フェニルオキシラン	スチレンオキシド	1 ppm	2022-000	固体捕集ーガスクロマトグラフ分析方法	保存安定性が85%程度なので、やや過小評価になる				
96-22-0	ジエチルケトン		300 ppm	2022-124	固体捕集ーガスクロマトグラフ分析方法	ー	リスク評価書、No.124 (初期)、ジエチルケトン、p.22	2015	https://www.mhlw.go.jp/content/11305000/000943312.pdf	参考文献： 1) 和光純薬工業SDS「ジエチルケトン (2007) 2) 安全衛生情報センターGHSモデルMSDS情報No.0760「ジエチルケトン」、中央災害防止協会 3) NIOSH 2532 Ketons I 4) OSHA Method Diethyl-ketone PV2136 5) カーボンビーズアクティブジャンボ型 400/200 mg (080150-096) 取扱説明書、柴田科学
96-33-3	アクリル酸メチル		2 ppm	2022-083	固体捕集ーガスクロマトグラフ分析方法	ー	リスク評価書、No.83 (初期)、アクリル酸メチル、p.31	2016	https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11201000-Roudoukijunkyoku-Soumuka/0000117329.pdf	

97-77-8	テトラエチルチウラムジスルフィド	ジスルフィラム	2 mg/m ³		2022-088	ろ過捕集+固体捕集-液体クロマトグラフ分析方法	-	リスク評価書、No.88 (初期)、テトラエチルチウラムジスルフィド、p.39	2016	https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11201000-Roudoukiunkyoku-Soumuka/add1.pdf	
98-00-0	フルフリルアルコール		0.2 ppm		2022-000	固体捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	要遮光		2021	掲載準備中	参考文献： 1) 厚生労働省 職場のあんぜんサイト 安全データシート フルフリルアルコール 2) NIOSH Manual of Analytical Methods (NMAM) 4th Edition FURFURYL ALCOHOL, METHOD:2505, Issue 2 3) 作業環境測定ガイドブック 5有機溶剤関係
98-01-1	フルフラール		0.2 ppm		2022-000	固体捕集-液体クロマトグラフ分析方法					
98-51-1	パラ-ターシャリーブチルトルエン		1 ppm		2022-000	固体捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	-	117 パラ-ターシャリーブチルトルエン測定手法 個票	2014	掲載準備中 参考文献： NIOSH Manual of Analytical Methods No.1501	
98-82-8	クメン		10 ppm		2022-082	固体捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	-	リスク評価書、No.82 (初期)、クメン、p.31	2015		
98-83-9	アルファ-メチルスチレン		10 ppm		2022-077	固体捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	高濃度での破過に注意 (現場測定しているので、回収率等のデータはあるはず)	初期リスク評価書、No.77 (初期)、アルファ-メチルスチレン、p.25 (アクティブサンプリング) 初期リスク評価書、No.77 (初期)、アルファ-メチルスチレン、p.26 (パッシブサンプリング)	2015	https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11201000-Roudoukiunkyoku-Soumuka/0000073720.pdf	
98-95-3	ニトロベンゼン		0.1 ppm		2022-062	固体捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	濃度基準値の1/5で±10% (NIOSH NMAM 2005) 脱着率・保存安定性はリスク評価事業で検証済み	初期リスク評価書、No.62 (初期)、ニトロベンゼン、p.34	2012	https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002gr-zr-att/2r9852000002gsaq.pdf	
101-77-9	4,4'-メチレンジアニリン		0.4 mg/m ³		2022-034	ろ過 (反応) 捕集-液体クロマトグラフ分析方法	-	初期リスク評価書、No.34 (初期)、4,4'-メチレンジアニリン、p.18	2009	https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2009/06/dl/s0630-7co.pdf	

105-60-2	ε-カプロラクタム		5 mg/m ³		2022-085	ろ過捕集+固体捕集ーガス クロマトグラフ分析方法	前段フィルターはガラス バイアル瓶に入れて保存 しないと保存安定性は下 がる	リスク評価書、No.85 (初期)、イプシロン -カプロラクタム、 p.31	2016	https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11201000-Roudoukijunkyoku-Soumuka/0000117333.pdf	
106-46-7	p-ジクロロベンゼン		10 ppm		2022-056	固体捕集ーガスクロマトグ ラフ分析方法	保存安定性未検討のため、速やかに分析するか、分析時に確認するのが望ましい	詳細リスク評価書、 No.56 (詳細)、パラ -ジクロロベンゼン、 p.24	2012	https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002gr-zr-att/2r9852000002gsfm.pdf	参考 シックハウス (室内空気汚染) 問題に関する検討会中間報告書 (第6~7回)
106-89-8	エピクロロヒドリン		0.5 ppm		2022-000	—	—	平成18年度化学物質による労働者の健康障害防止に係るリスク評価検討会報告書 (5物質)	2007	https://www.mhlw.go.jp/houdou/2007/04/dl/h0406-4a-01.pdf	
106-92-3	1-アリルオキシ-2,3-エポキシプロパン		1 ppm		2022-118	固体捕集ーガスクロマトグ ラフ分析方法	—	リスク評価書、 No.118 (初期)、1- アリルオキシ-2,3-エ ポキシプロパン、p.31	2021	https://www.mhlw.go.jp/content/11305000/000826153.pdf	
106-94-5	1-ブロモプロパン	臭化プロピル	0.1 ppm		2022-113	固体捕集ーガスクロマトグ ラフ分析方法	—	リスク評価書、 No.113 (初期)、1 -ブロモプロパン、 p.46	2017	https://www.mhlw.go.jp/content/11305000/000606237.pdf	参考文献： 化学物質の環境リスク評価 第6巻、環境省環境保険部環要確認
107-02-8	アクロレイン		0.1 ppm*		2022-120	固体 (反応) 捕集ー液体ク ロマトグラフ分析方法	特注の捕集剤 現在は市販されている 添加回収率が8 0%程度なので、過小評価 の可能性がある	リスク評価書、 No.120 (初期)、ア クロレイン、p.42	2021	https://www.mhlw.go.jp/content/11305000/000826155.pdf	参考文献： 1) NIOSH Manual of Analytical Methods (NMAM), Fourth Edition, Method 2501 acrolein, V. 1, P&CAM 118 and 211, U.S. Department of Health, Education, and Welfare, Publ. (NIOSH), (1984). 2) "OSHA Analytical Methods Manual, method #52", U. S. Department of Labor, Occupational Safety and Health Administration, OSHA Analytical Laboratory, Salt Lake City, UT, March, 1985. 4) 野口ら, アクロレイン捕集のための新規DNPHカートリッジの開発、室内環境学会 2017, pp.33-34、2017年 5) 荻野、中山, 酸触媒を用いないDNPH誘導体化/高速液体クロマトグラフィーによる環境大気中アクロレインの定量、分析化学, VOL59, No3, PP.251-256、2010年 6) 作業環境ガイドブック(3)特定化学物質関係、2017年
107-05-1	塩化アリル		1 ppm		2022-081	固体捕集ーガスクロマトグ ラフ分析方法	—	リスク評価書、No.81 (詳細: 経気道に係る 中間報告)、塩化アリ ル、p.30	2021	https://www.mhlw.go.jp/content/11305000/000606223.pdf	

107-07-3	エチレンクロロヒドリン		2 ppm		2022-072	固体捕集ーガスクロマトグラフ分析方法	添加回収率が80%程度なので、過小評価の可能性はある	リスク評価書, No.72 (初期)、エチレンクロロヒドリン, p.25	2014	https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11201000-Roudoukijunkyo-Soumuka/0000052052.pdf	
107-21-1	エチレングリコール		10 ppm	50 ppm	2022-000	固体捕集ーガスクロマトグラフ分析方法	要フィルター 短時間濃度基準値にも対応可能 注入口への吸着に注意が必要 特に低濃度では、誘導体化が必要	ページにより高濃度と低濃度あり		掲載準備中	
108-05-4	酢酸ビニル		10 ppm	15 ppm	2022-045	固体捕集ーガスクロマトグラフ分析方法	パッシブサンプラーでも測定可	詳細リスク評価書, No.45 (詳細)、酢酸ビニル, P.18	2009	https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001iz7t-att/2r9852000001izww.pdf	
108-46-3	レソルシノール	レゾルシン	10 ppm		2022-095	ろ過捕集+固体捕集ー液体クロマトグラフ分析方法	捕集・保管時に要遮光	リスク評価書, No.95 (初期)、レソルシノール, p.35	2019	https://www.mhlw.go.jp/content/11201000/000496398.pdf	3) 日本産業衛生学会, 2009, ACGIH, 2009. 4) OSHA (01/19/2007) Chemical sampling information, Resorcinol. Washington, DC, US Department of Labor, Occupational Safety and Health Administration, at website. < https://www.osha.gov/dts/sltc/methods/partial/pv2053/2053.html >, 参照2015/10/9. 5) 和光純薬工業(株)、HPLCアプリケーション、レソルシノールの分析. < http://www.wako-chem.co.jp/siyaku/info/chromato/pdf_app/resor.pdf >, 参照2015/10/9.
108-91-8	シクロヘキシルアミン			5 ppm	2022-000	ろ過(反応)捕集ー液体クロマトグラフ分析方法	短時間測定では感度が不足する リスク評価事業で2法あるが、難しい	154 シクロヘキシルアミン 測定手法 2020 個票	2012	U.S. Department of Labor, Occupational Safety and Health Administration (OSHA). Method No. PV2016, Cyclohexylamine; Sampling and analytical methods. Salt Lake City (UT): OSHA; 1994.	

110-86-1	ピリジン		1 ppm		2022-090	固体捕集ーガスクロマトグラフ分析方法	個人ばく露濃度測定のような長時間の測定においては、回収率を確保するため、捕集管を2連にしてサンプリングを行い、後段を分析して破過の有無を確認する必要がある	リスク評価書、No.90（初期）、ピリジン、p.31	2018	https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11201000-Roudoukijunkyoku-Soumuka/add4.pdf	1. 化学物質の環境リスク評価 第4巻、環境省環境保健部環境リスク評価室 2. The National Institute for Occupational Safety and Health (NIOSH): PYRIDINE: METHOD 1613 (1994) 3. Occupational Safety & Health Administration (OSHA): PV229
111-30-8	グルタルアルデヒド		0.03 ppm*		2022-074	固体（反応）捕集ー液体クロマトグラフ分析方法	感度確認	リスク評価書、No.74（初期）、グルタルアルデヒド、p.26	2014	https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11201000-Roudoukijunkyoku-Soumuka/0000093684.pdf	・ NIOSH Manual of Analytical Method 2532. Glutaraldehyde. National Institute for Occupational Safety and Health (NIOSH), Cincinnati, OH, USA. 1994 ・ OSHA Analytical Methods Manual Glutaraldehyde. Manual 64. Occupational Safety and Health Administration (OSHA) Technical Center. United State Department of Labor, Salt Lake City, UT, USA. 1989. ・ Kennedy ER, Hill Jr RH. Determination of formaldehyde in air as an oxazolidine derivative by capillary gas chromatography. Anal Chem 1982; 54: 1738 - 1742. ・ Lipari F, Swalin SJ. Determination of formaldehyde and other aldehydes in automobile exhaust with an improved 2,4-dinitrophenylhydrazine method. J Chromatog 1982; 247: 297 - 306.
111-42-2	ジエタノールアミン		1 mg/m ³		2022-121	ろ過（反応）捕集ー液体クロマトグラフ分析方法	誘導体化法なので、技術を要する	リスク評価書、No.121（初期）、ジエタノールアミン、p.34	2019	https://www.mhlw.go.jp/content/11305000/000826156.pdf	5) Langvardt PW, Melcher RG. Determination of ethanol-and isopropanolamines in air at parts-per-billion levels. Analytical Chemistry 1980; 52 (4): 669-671. 6) U.S. Department of Labor, Occupational Safety and Health Administration (OSHA). Method No. PV2018, Diethanolamine. Sampling and analytical methods. Salt Lake City (UT): OSHA; 1987. 7) National Institute for Occupational Safety and Health (NIOSH). Method No. 3509. Aminoethanol compounds II. NIOSH manual of analytical methods, fourth edition. Cincinnati (OH): NIOSH; 1994. 8) Serbin L, Birkholz D. A sensitive analytical procedure for the determination of primary and secondary alkanolamines in air. American Industrial Hygiene Association journal 1995; 56 (1): 66-69. 9) Stan'kov IN, Sergeeva AA, Tarasov SN. Gas-chromatographic determination of trace amino alcohols in water, air, and bitumen-salt masses forming in the detoxication of chemical warfare agents. Journal of Analytical Chemistry 2000; 55 (2): 150-154. 10) Headley JV, Fedorak PM, Dickson LC. A review of analytical methods for the determination of sulfolane and alkanolamines in environmental studies. Journal of AOAC International 2002; 85 (1): 154-162. 11) Claeson AS, Stin A, Sunesson AL. Development of a LC-MS/MS method for the analysis of volatile primary and secondary amines as NIT (naphthylisothiocyanate) derivatives. Analytical and bioanalytical chemistry 2004; 378 (4): 932-939. 12) Henriks-Eckerman ML, Suuronen K, Jolanki R, et al. Determination of occupational exposure to alkanolamines in metal-working fluids. Annals of Occupational Hygiene 2007; 51 (2): 153-160. 13) Fournier M, Lesage J, Ostiguy C, et al. Sampling and analytical methodology development for the determination of primary and secondary low molecular weight amines in ambient air. J Environ Monit 2008; 10 (3): 379-386.
122-39-4	ジフェニルアミン		5 mg/m ³		2022-093	ろ過捕集+固体捕集ーガスクロマトグラフ分析方法	固相カートリッジはアセトン10mLで洗浄後、窒素を吹き付けて乾燥させてから使用	リスク評価書、No.93（初期）、ジフェニルアミン、p.41	2019	https://www.mhlw.go.jp/content/11201000/000496396.pdf	
123-31-9	ヒドロキノン		1 mg/m ³		2022-000	ろ過捕集ー液体クロマトグラフ分析方法	ガス捕集の追加が必要			掲載準備中	参考文献：厚生労働省他3件
124-40-3	ジメチルアミン		2 ppm		2022-098	固体（反応）捕集ー液体クロマトグラフ分析方法	ー	リスク評価書、No.98（初期）、ジメチルアミン、p.30	2019	https://www.mhlw.go.jp/content/11201000/000496401.pdf	OSHA Method no. 34, 41

126-98-7	メタクリロニトリル		1 ppm		2022-076	固体捕集ーガスクロマトグラフ分析方法	ー	リスク評価書、No.76 (初期)、メタクリロニトリル、p.20	2014	https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11201000-Roudoukijunkyo-Soumuka/0000052055.pdf	
127-19-5	N,N-ジメチルアセトアミド		5 ppm		2022-067	固体捕集ーガスクロマトグラフ分析方法	ガラスウールも分析	初期リスク評価書、No.67 (初期)、N,N-ジメチルアセトアミド、p.13		https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11201000-Roudoukijunkyo-Soumuka/0000052055.pdf (GC/MS)	https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r985200000375tx-att/2r985200000375zt.pdf (GC/NPD法) 参考文献：OSHA (OrganicMethodN0.66)
128-37-0	2,6-t-ブチル-p-クレゾール	ジブチルヒドロキシトルエン (BHT)	10 mg/m ³		2022-000	ろ過捕集+固体捕集ーガスクロマトグラフ分析方法	ー			掲載準備中	
137-26-8	テトラメチルチウラムジスルフィド	チウラム	0.2 mg/m ³		2022-112	ろ過捕集ー液体クロマトグラフ分析方法	ー	リスク評価書、No.112 (詳細)、テトラメチルチウラムジスルフィド (別名：チウラム)、p.52	2018	https://www.mhlw.go.jp/content/11305000/000943311.pdf	参考文献： 3) NIOSH Method No.5005 : NIOSH Manual of Analytical methods (NMAM) Fourth Edition, 8/15/94 4)チウラムの測定方法：環境庁公示第59号付表4水質汚濁に係る環境基準
140-88-5	アクリル酸エチル		2 ppm		2022-040	固体捕集ーガスクロマトグラフ分析方法	ー	初期リスク評価書、No.40 (初期)、アクリル酸エチル、p.20	2010	https://www.mhlw.go.jp/stf2/shingi2/2r9852000000e8q1-att/2r9852000000egq1.pdf	
149-57-5	2-エチルヘキサン酸		5 mg/m ³		2022-078	ろ過捕集+固体捕集ー液体クロマトグラフ分析方法	捕集法の検証が必要 発色に4時間を要する	初期リスク評価書、No.78 (初期)、2-エチルヘキサン酸、p.24	2015	https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11201000-Roudoukijunkyo-Soumuka/0000073721.pdf	
302-01-2 7803-57-8	ヒドラジン ヒドラジンー水和物		0.01 ppm		2022-029	ろ過 (反応) 捕集ー液体クロマトグラフ分析方法	添加回収率のバラツキが大きい	初期リスク評価書、No.29 (初期)、ヒドラジン (ヒドラジンー水和物を含む。)、p.20	2009	https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2009/06/dl/s0630-7br.pdf	
333-41-5	チオリン酸O, O-ジエチル- O- (2-イソプロピル- 6-メチル- 4-ピリミジニル)	ダイアジノン	0.01 mg/m ³		2022-000	ろ過捕集+固体捕集ー液体クロマトグラフ分析方法	LC/MS/MSが必要 捕集法の検証が必要				

542-75-6	1,3-ジクロロプロペン		1 ppm		2022-053	固体捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	-	初期リスク評価書、No.53 (初期)、1,3-ジクロロプロペン)、p.16	2009	https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001iz7t-att/2r9852000001izgb.pdf	
1300-73-8	キシリジン (全異性体)		0.5 ppm		2022-064	ろ過 (反応) 捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	誘導体化法であるため技術を要する 芳香族アミン 9 成分は分離可能 (キシリジン 1300-73-8, 2,4-キシリジン 95-68-1, 2,5-キシリジン 95-78-3, 2,6-キシリジン 86-62-7, 2,3-ジメチルアニリン 87-59-2, 2,4-ジメチルアニリン 95-68-1, 2,5-ジメチルアニリン 95-78-3, 2,6-ジメチルアニリン 87-62-7, 3,4-ジメチルアニリン 95-64-7, 3,5-ジメチルアニリン 108-69-0)	初期リスク評価書、No.61 (初期)、キシリジン、p.28	2010	https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002grzr-att/2r9852000002gsah.pdf	
1303-96-4	四ホウ酸ナトリウム (十水和物)	ホウ砂	ホウ素として0.1 mg/m ³	ホウ素として0.75 mg/m ³	2022-000	ろ過捕集-誘導結合プラズマ発光分光分析方法		188 ほう酸ナトリウム (四ホウ酸二ナトリウム十水和物に限る。) 測定手法 個票	2021	掲載準備中 参考文献: 1) 職場のあんぜんサイト: 化学物質: 四ホウ酸ナトリウム (十水和物) 2) 中央労働災害防止協会 「ジボラン分析測定法に関する検討報告書」 (2013 年度)	
1634-04-4	メチル-tert-ブチルエーテル	MTBE	50 ppm		2022-000	固体捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	-	NIOSH NMAM 1615			
4170-30-3	2-ブテナール			0.3 ppm*	2022-106	固体 (反応) 捕集-液体クロマトグラフ分析方法	-	リスク評価書、No.106 (初期)、2-ブテナール、p.33	2015	https://www.mhlw.go.jp/content/11305000/000606230.pdf	5) 萩野浩之、中山明美: BUNSEKI KAGAKU Vol.59, No.3, pp251-256 (2010) 6) 太田和司、内山茂久、稲葉洋平、中込秀樹、櫻田尚樹: BUNSEKI KAGAKU Vol.60, No.10, pp791-797 (2011) 7) 大貫文、齋藤育江、保坂三継、中江大: 東京健安研七年報 Ann. Rep. Tokyo Metr. Inst. Pub. Health, 63, 247-253, 2012 8) Steven Sai Hang Ho, K.F. Ho, W.D. Liu, S.C. Lee, W.T. Dai, J.J. Cao, H.S.S. Ip: Atmospheric Environment, Volume 45, Issue 1, January 2011, Pages 261-265

7440-02-0	ニッケル		1 mg/m ³		2022-108	ろ過捕集－誘導結合プラズマ発光分光分析方法	－	リスク評価書、No.108（初期）、ニッケル（金属及び合金）, p.29	2015	https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11201000-Roudoukijunkyouku-Soumuka/add3.pdf	<ul style="list-style-type: none"> ・ NIOSH Manual of Analytical Methods 7300 ・ NIOSH Manual of Analytical Methods 7301 ・ NIOSH Manual of Analytical Methods 7303 ・ 作業環境測定ガイドブック 4 金属類 ・ 中央労働災害防止協会「ニッケル化合物分析法に関する検討結果報告書」 ・ 中央労働災害防止協会「作業環境中ニッケル化合物の測定方法について」
7440-28-0	タリウム		0.02 mg/m ³		2022-075	ろ過捕集－誘導結合プラズマ質量分析方法	－	リスク評価書, No.75（初期）、タリウム及びその水溶性化合物、p.28	2014	https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11201000-Roudoukijunkyouku-Soumuka/0000052054.pdf	<ul style="list-style-type: none"> NIOSH Manual of Analytical Methods 7301 改訂4版 化学便覧 基礎編、p.220-221, 日本化学会 丸善 1993 年 ニッケル化合物を対象とした測定法に関する基礎研究 第 49 回 日本労働衛生工学会 p42～43 2009
7726-95-6	臭素			0.2 ppm	2022-000	ろ過（反応）捕集－イオンクロマトグラフ分析方法	NIOSH NMAM 6011での検証結果を基に計算すると15分で0.05 ppm測定可			NIOSH NMAM6011	
7803-51-2	ホスフィン		0.05 ppm	0.15 ppm	2022-000	固体（反応）捕集－吸光度分析方法	吸光度法は測定者の技術に依存するので、再現性の高いデータが得られているか確認すべきである			掲載準備中	
10024-97-2	一酸化二窒素	別名：亜酸化窒素	100 ppm		2022-000	直接（キャニスター）－ガスクロマトグラフ分析方法	キャニスターは作業環境の測定では一般的ではない ガス捕集用の不活性なガスバッグでも捕集可能 暗所保管	084 一酸化二窒素測定手法 個票	2012	掲載準備中	参考 The National Institute for Occupational Safety and Health (NIOSH)(1994):METHOD 6600.他2件
16219-75-3	5－エチリデン－2－ノルボルネン	エチリデンノルボルネン	2 ppm	4 ppm	2022-114	固体捕集－ガスクロマトグラフ分析方法	－	リスク評価書、No.114（初期）、エチリデンノルボルネン、p.27			<ul style="list-style-type: none"> 2) International Chemical Safety Cards (ICSC) 5-ETHYLIDENE-2-NORBORNENE (stabilized) https://www.cdc.gov/niosh/ipcsneng/neng0473.html 3) 環境庁環境保健部保健調査室 化学物質分析法開発調査報告書（昭和 62 年度）
17804-35-2	N- [1- (N-n-ブチルカルバモイル) -1H-2-ベンゾイミダゾリル] カルバミン酸メチル	ベノミル	1 mg/m ³		2022-000	ろ過捕集＋固体捕集－液体クロマトグラフ分析方法	－			掲載準備中	

19287-45-7	ジボラン		0.01 ppm		2022-101	溶液捕集－誘導結合プラズマ発光分光分析方法	硝酸溶液の濃度不明60%?	リスク評価書、No.101（初期）、ジボラン、p.29	2014	https://www.mhlw.go.jp/content/11305000/000606225.pdf	<ul style="list-style-type: none"> ・メモリー効果を抑制するには純水または1 M硝酸による5分以上の洗浄を行う。 ・10 mg/Lを超える高濃度試料を測定する恐れがある場合には、予め希釈して濃度チェック測定を行うとよい。 ・本法が全ホウ素を定量するため、その他ボラン化合物との濃度の分別については、作業場における化学物質の使用状況を考慮して決定する。なお、ホウ酸またはその他のホウ素化合物などについては考慮する必要がある。
------------	------	--	----------	--	----------	-----------------------	---------------	-----------------------------	------	---	---